



4月21日、市立加茂小学校の卒業生である浅井久雄さんが市長室を訪れ、母校の子どもたちにもっと本を読ませてあげたいと10万円を寄付しました。木田市長は、「子どもたちのために、大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。

いただいた寄付金で購入した本は、教育委員会から同校へ渡されます。

故郷の子どもたちにも本を



三重大学を中核としたがん医療センター設立に向けて、走りながら寄付を呼び掛ける「生命の駅伝」が県内各地で行われました。

5月23日、自転車で志摩市役所を出発した一行は、保健福祉センターひだまりを訪れ、市職員ら約30人に出迎われました。木田市長からこれまでに集めた募金箱を手渡され、「がん撲滅に向けて頑張ります」とお礼を述べ、次の目的地である済生会松阪総合病院を目指して出発しました。

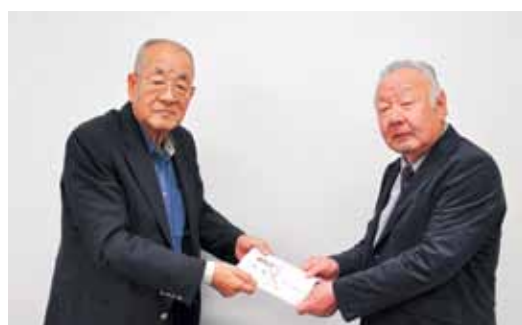
三重県にがんセンターを



5月10日、「里海を創る海女の会」の総会と研修会が志摩市の磯部生涯学習センターで開かれ、鳥羽市と志摩市の現役の海女36人が参加しました。

研修会では、宮崎大学耳鼻咽喉・頭頸部外科・中西悠助教による「海女さんの耳」に関する講演があり、海女らは、外耳道に長期間冷水刺激が加わることで耳の穴が狭くなる状態となる「外耳道外骨腫」の説明に熱心に聞き入っていました。また、講演後には耳の検診があり、潜水による耳の異常がないかを確認しました。

海女さんが耳の健康をチェック



4月18日、NPO鳥羽リサイクルネットワークの山西代表が市社会福祉協議会を訪れ、収益金129,066円を寄付しました。

鳥羽市リサイクルパークは、家庭で不要になった日用品や衣服をリユースショップで提供し、その収益金を福祉に役立ててほしいと平成20年から寄付を行ってきました。市社会福祉協議会では、寄付金を福祉基金に積み立て、平成25年に完成した障がい者施設「ゆめぱーる」の建設費にその一部が充てられました。

福祉のために役立ててほしい